

大山氏追悼



大山豊さんを悼む

(株)テクノ長谷

大友 義一

東北ボーリングさく泉㈱取締役営業部長で、当協会の総務委員で活躍されていた大山さんが6月に急逝されたとの知らせを受けてがく然としました。まさか人一倍頑健で元気なあの大山さんが亡くなったなんてとても信じられませんでした。

大山さんは協会の総務委員として持前の明るさと活発な行動力で総会のお世話役を先頭に立って行なっていました。その姿を今もはっきり思い出す事が出来ます。又夜の会合が時々ありましたが、その時はいつも幹事役を買って出て、顔の広さを生かして二次会まですぐに準備してくれました。更に得意のノドを披露して場を大いに盛りあげてくれました。

誰もがその大らかな親しみやすい人柄を忘れることはないでしょう。これから益々仕事に協会の為活躍を期待された矢先、若くして亡くなられた事は誠に残念でなりません。

心からご冥福をお祈り致します。



大山氏追悼

大山豊さんのこと

応用地質㈱

石川正夫

大山豊さんとの出会いは昭和62年5～6月頃宮城県大河原土木事務所の入札会場だったと記憶している。

元気がよく響く声での挨拶が忘れられずに現在も頭のすみに残っている。(その後、東北学院時代は応援団の副団長だったことがわかり納得。)

縁あって協会の委員会のメンバーとなり、また、個人的にも近所に住む関係となったことから付き合いが出来て、協会行事のほかにもゴルフや飲む機会が少しずつ増えてきていた今日このごろの状況でした。

学院時代に養った面倒見の良い性格が協会活動にも遺憾なく発揮され、総会・臨時総会の受付、親睦ゴルフ会場の設定など積極的に取り組んできており、総務委員会の幹事としてはこの上も無く貴重な存在で頼りにしていたことは言うまでもありません。

家庭にあっても良き父親として、3人の男のお子さんの成長を楽しみにしている様子が伺えました。

特に次男が高校のゴルフクラブに入り、自分の愛用していたクラブが何本駄目にされたとか、スコアも自分を抜いたとか言う話をするときのうれしそうな顔が目には浮かびます。

いずれにしても、こんなに早くこの世から自分が去ることなど予測できる人は誰一人いるわけが無い。豊ちゃん(最近はおっばらこのような呼び方で呼んでいた)も息子に負けないようにとゴルフのアイアンセットを買い直し、このクラブでコースに出ることを楽しみにしたまま天国に飛んでいってしまった。

今ごろは兄弟そろってゴルフでも楽しんでいることかもしれないと思っている。

合掌

永井氏追悼



永井忠男さんの逝去を悼む

(株)テクノ長谷

東北地質調査業協会前理事長

長谷 弘太郎

元東北地質調査業協会理事長永井忠男さんは、去る平成6年7月31日、富谷カントリークラブ3番ホールで突然胸の痛みを訴えられ富谷救急病院へ移送されましたが、応急手当の甲斐もなく心筋梗塞のため逝去されました。享年78才でした。次の8月1日には私とお会いする約束をしておいた矢先のことでした。ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

永井さんは、旧満州大陸から引揚げられるとすぐ株東北復建事務所（現株復建技術コンサルタント）の設立に尽力され、昭和60年定年退職まで常務取締役として会社の発展に寄与され今日の復建隆盛に甚大な貢献をなされました。また東北地質調査業協会（前身東北ボーリングさく井協会）の設立に当っては、設立準備会の事務一切を引き受けられ、東北各県の同業各社の賛同を得て、昭和34年1月設立総会を实らせました。協会発足後も一貫して影の力として協会発展に努力されました。

昭和58年には会員各社の強力な推薦により理事長に就任され、昭和60年の会社定年退職までわずか3年間ではありましたが、業界の発展に大きな功績を残されました。特に「地質調査技士資格検定試験」の建設大臣認定では全国地質調査業協会連合会の常任理事として歯に衣せぬ発言で全国理事をリードされ昭和59年春待望の大臣認定にこぎつけました。

会社定年退職後はもっぱらゴルフに専念されたようです。現役時代もゴルフの腕は確かだったのですが、定年後益々磨きがかかり、私など足元にも及ばず最近ではご一緒する機会が少なくなっておりました。いつも誘い合いのゴルフでしたが、一度だけ断られたことがありました。めずらしいことなので理由をお聞きしたところ、当日は菩提の行事に参列ということでした。佛に帰依なさる永井さんの一面に驚かされた記憶が蘇ってきます。菩提寺の壇家総代としても活躍なされておられました。

これからも、永くご指導を頂けるものと思っていた私にとって、永井さんのご他界は本当に早すぎる別れでありました。今はただ永井さんの足跡を偲びつつ謹んで哀悼の意を表しご冥福を心からお祈りするのみです。